

地域密着型経営を講義

福島学院大といちいち連携授業

福島学院大とスーパーのいちいち(福島市)は1日、同社から地域密着型の経営について学ぶ連携授業を開講した。必修科目「経営概論」で後期の全15回を活用し、情報ビジネス学科の2年生約30人が履修する。

同社の商品開発や営業、人事、経理などに関わる社員が講師を担当。生鮮食品などを軽トラックに積んで訪問販売する移動スーパー



スーパーの役割などを説明する伊藤常務

「とくし丸」や福島市のいちい街なか店で月1回程度開催している物産展などの取り組みをテーマとする。

初回の授業では、伊藤常務が魚屋として創業した同社の歴史や企業規模を紹介。小売店の役割にも触れ「お店がなかったら、お客さまが自分で生産者のところまで行って買い物をしな

ければならない」と述べた。福島学院大と同社は昨年12月に包括的な連携協定を締結し、地域経済の活性化や人材育成など幅広い分野で協力している。